

●七草摘みと七草粥 6 日(月) 里山農園 34 人の出席

当日は、大変天気が晴れ渡り、冬真っ盛りの中寒くはなく適当な気候にめぐまれました。開始の 10 時過ぎに深田理事長から新年幕開けの「七草を食して 1 年を元気に健康で送れるよう期待しています」と挨拶がありました。続いて参加者全員が自己紹介を行いました。京都市内左京区から数人来られていました。湯川幸子さんから里山農園や七草摘みの取組の歴史、間違いやすい植物などについて説明がありました。プログラムを紹介した後、湯川さん、近藤さん、山下さんその他植物班のメンバーに連れられて野原に出かけました。スピーカーを使つての実況放送さながらの賑やかでわかりやすい七草摘みになりました。

草摘みを行っている時間に火おこしや炭火への火付けを行い、粥作りが進行させていました。もう一方では枯草や落ち葉などを集めての焚火を進め、サツマイモ焼き芋の準備が並行して準備が手際よく進められました。例年ですと七草摘みに 1 時間は必要だったので、ここ数年前日に農園を調べ上げておいて、七草がここにありと見つける手間を省き能率よく進むように準備がされていたので、順調に進行できました。植物班の皆さんの前日からの準備がかなりしっかりしたものでした。昨年数本しか見つからなかったゴギョウが今年はしっかり見付き、大根とカブラ以外は全部完全に摘み取ることが出来ました。山から流れ出る水できれいに洗って囃子歌を歌い、子どもたちが七草を刻みました。子どもたちは菜切り包丁と言っても包丁の種類が分からないようでした。菜っ葉も切って売っている時代だということでした。囃子歌を歌って応援して刻まれた七草を炊き上がる直前のお粥に投入して、手を洗って、試食になります。湯気がもうもうと上がる鍋から竹の筒で作ったお椀に熱々の粥をよそってもらい、ふうふう言いながら戴きました。新鮮なお粥に混ざった七草の野草の匂いと食感がなんとも言えず美味しいと感嘆の声が自然と上がりました。うまい！！と響きました。真っ青な空をこちらの山から谷を飛ぶウグイスの声がおいしさを倍増してくれました。さっき迄地面に生えていた七草、摘みたてのおいしさは格別でした。古代米の粥、芋粥等三種類の粥を準備していただき、食べ比べました。どれもどれも大変おいしかったです。

食べ終わると次は「一月一日」「富士山」を声をそろえて歌いました。今年は干支の一番なので「俵をゴロゴロ」で勢いをつけて歌いました。声出しの次は奇術の披露を有田勉さんが行い笑いを誘いました。引き続き腹話術で更に顔が緩みました。最後に金田徹さんがお得意の皿回しが登場して参加した子どもたちが楽しみました。今年新登場の福引が出てきてガラガラポンに目がひきつけられました。きれいに後かたづけが出来たのが 1 時 30 分できっちり予定通りでした。本当に楽しい年明けの明るいひと時でした。得意芸を披露いただいた皆さん、と前日から準備していただきました皆さん本当にありがとうございました。感謝です。

●太田さん 正月 2 日 里山の会新年号の送信作業を実施

正月三が日は地獄の釜の蓋も開くということなのですが、太田さんには 2 日目の朝から事務所に出勤いただきまして、週刊ニュース新年号 806 号の発送のためパソコンに取り組んでいただきました。ご家族がお揃いでのところ大変お世話になりました。おかげ様で途切れることなく記念号が発行できました。ご奮闘ありがとうございました。大変お世話になりました。

●七草摘みの準備 普賢寺 5 地区の区長さんに招待案内状を届ける

年の暮れ 12 月 27 日炭焼き釜の清掃作業が終了したときに七草摘みのご招待を行なおうと決めて

いたので、大村さんと森島さんは普賢寺地域の出身なので、多々羅、上区、水取区、天王区、打田区、高船区の各区長さんにお届けをいただきました。また里山農園周辺の皆さんや、普賢寺小学校の畠中佳美校長さんなどにもお届けしました。それぞれの皆さんは直近の案内だったので、ご都合がつかなくご欠席となりましたが、里山の会が取り組んでいることは良くご承知で関心をもっておられることがわかりました。

●里山農園 2018 年度販売実績伸びず 52859 円の赤字、2019 年度も赤字計上の見通し

1 月 8 日が新年早々の事務局会を開きました。それぞれが新しい抱負を持ってご参加でした。特に今年は結成 25 周年記念年にあたります。従来 of 国交省からの受注事業、府への助成申請事業、京都大学との共同事業、夏原グラントの助成金事業に加えて新しく「イタセンパラの復活を目指す」トヨタ環境部門活動の取組が加わりますので、さらに忙しくなつてまいります。新たな決意があふれる初事務局会義となりました。そんな中、

注目と関心が集中した里山農園の近年の決算状況報告でした。年間最高の売り上げ実績は 2015 年に 38 万円が記録されています。ところが 2018 年度には赤字 52859 円となりました。2019 年度の見通しも昨年以上といわれる状況となりました。里山の会は NPO として全体会計が赤字となれば直ちに解散となります。確定収入となる会費は右肩下がり of 傾向となつて、厳しい現状を迎えています。年初当初の報告提案に厳しい問題提起となりました。

●「イタセンパラの復活を目指して」第 1 回の打合せ会議 16 名の出席者決定

この取組みはトヨタ環境活動助成プログラムです

1 月 19 日（日）京田辺市中央住民センター 会議室

学識経験者 竹門康弘（京都大学准教授） 綾史郎（大阪工業大学元教授）

石田裕子（摂南大学教授） 小川力也（富田林高校前教師）

河合典彦（大阪市中学校教師） 中川宗孝（木津川生き物愛好家）

河川レンジャー 福井波恵 田中美智世 大釜智光 小林慧人（京都大学院生）

北野大輔（滋賀県立大学院生）

里山の会 深田三郎（理事長） 大村幸正（副理事長） 金田徹（生き物担当） 太田敏之（理事）

山村武正（常務理事）

●木津川一斉清掃クリーン作戦 第 2 回実行委員会 1 月 14 日 京田辺市中央公民館 30 団体が出席予定実施は 2 月 16 日を予定

●15 日（水）午後 5 時 キャンパスプラザ京都 4 階 第 3 講義室 レッドデータブック選定者を招いての学習会 参加費 500 円 昆虫の部「蛾」の部門を深める。

人気の取組なので、定員一杯になると見込まれるものです。生き物に関心をお持ちの皆様には、うってつけの説明会です。京都駅前ですからこぞつてご参加ください。

●里山の会主催 地域説明会の予定をお知らせします

①城陽市文化ホール 2 月 7 日（金） ②宇治市生涯学習ホール 2 月 9 日（日）

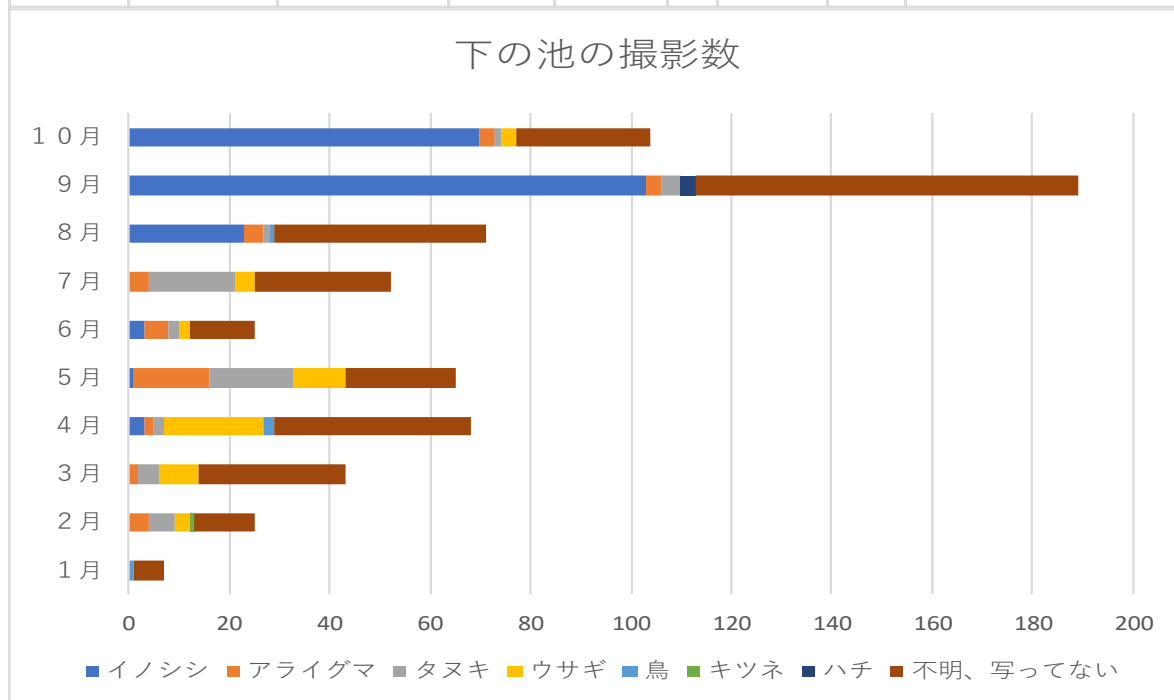
③八幡市さくらであい館 2 月 11 日（火 祝） ④木津川市泉ホール 2 月 15 日（土）

⑤京田辺市中央公民館 2 月 16 日（日） 会場は 10 時を予定しています。

もちろんミニ講演会及び地域訪問（史跡遺跡）も午後に計画しております。

●ヤマトサンショウウオの下の池のカメラに映っていた動物の数

下の池のビデオに映っていた動物数を数えてみた								
2020/1/8 太田								
	イノシシ	アライグマ	タヌキ	ウサギ	鳥	キツネ	ハチ	不明、写っていない
1 月	0	0	0	0	1	0	0	6
2 月	0	4	5	3	0	1	0	12
3 月	0	2	4	8	0	0	0	29
4 月	3	2	2	20	2	0	0	39
5 月	1	15	17	10	0	0	0	22
6 月	3	5	2	2	0	0	0	13
7 月	0	4	17	4	0	0	0	27
8 月	23	4	1	0	1	0	0	42
9 月	103	3	4	0	0	0	3	76
1 0 月	70	3	1	3	0	0	0	27
1 1 月								
1 2 月								



イノシシの場合、動きがゆっくりで何度も映っていたり、7頭一度に映っている場合もあった。そのため数が増えている場合がある。